



Gesshoku

# 月蝕

-end of  
Lament-

R18



“彼女”が私を

暗い海の底に沈む前に  
救ってくれた時

初めて聞く声  
初めて触れる温かい肌

初めてのはずなのに  
どこか懐かしさを感じ

繋がれたその手を  
二度と離したくないと思った

もう“彼女”を見失いたくないから——



月

Gesshoku

-end of  
Lament-

角蝕

※警告：冬月が後天性ふたなりです





—じゃあまた

午後の演習で

あ…そういうえば  
冬月さん

腕の方は…  
もう大丈夫ですか？



……ああ

よく…馴染んでいるよ

この身体に……





あと菜園の  
お手入れを…



お冬さん

今日は早めに  
お昼にしましょうか



お冬さん

……！





—涼

今夜……

これ以上の  
ことがしたい

……  
いいか？



……



……  
はい……

ツク……

——私は今夜  
涼月を……





…ん…



本当に  
この身体で…

お前を抱いても  
いいか…？

涼…



ん…

！









涼...

あっ...



!

チキ...



あ.....



お冬さん...っ...

ん、んん.....っ

——艦娘に  
なった時の私は

腕が欠けていた





艦娘はヒトの形をしているが  
頭と心臓さえやらなければならない  
「修復する」ことが可能だった



深海棲艦から  
艦娘になる者には  
よくあることらしい



私は  
「ヒト」の形を模した  
兵器であつて……

「人間」  
ではないのだな

……

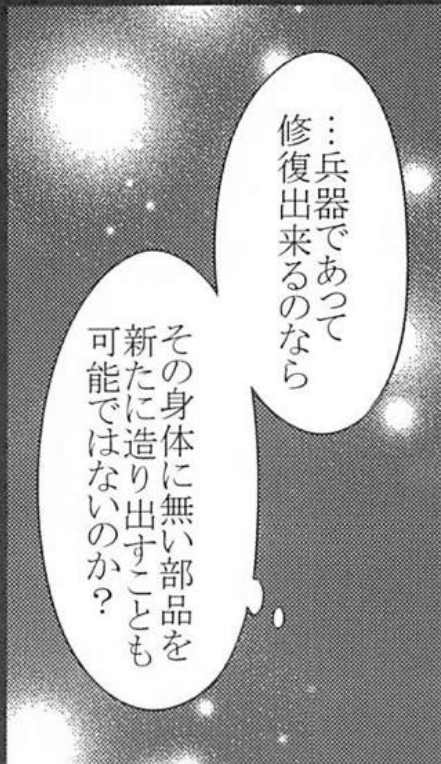
——その時  
私は思った



私は涼月を愛していた  
涼月も私の事を愛していた

艦ふねの時からの絆は  
艦娘になつてから  
より強固なもの  
なつていた

ただ……「ヒト」としての  
感情を覚えてから  
肌を触れ合わせるだけでは  
私は物足りなくなつていた



……兵器であつて  
修復出来るのなら

その身体に無い部品を  
新たに造り出すことも  
可能ではないのか？







お冬さん……

涼……



あ……

あま……

……





涼…大丈夫か？  
痛くないか…？

は…はいっ…

少し…痛みましたが  
大丈夫ですっ…



…っ

涼……っ！

あ……っ









お冬さん……？

あ……

……涼と……

繋がれたことが  
嬉しくて……



もっと……  
涼を感じたい

離れたくない……

お冬さん……

……はい

私もお冬さんと……



ずっと探していた  
ずっと……待っていた  
ヒトの姿を得る前  
まだ記憶という名の  
魂だった頃

二つの気配が  
一つになった時から

私は“彼女”が  
戻ってくるのを  
ずっと待ち続けていた



彼女がいない悲しみが  
雪のように降り積もり

その悲しみが  
艦に宿る多くの残留思念と  
合わさって負の形となり

目覚めた時には  
異形の姿になっていた

彼女の名を呼びながら  
戦い 傷つき

そして敗れ——



アイタイ...

イヤダ

シズタクナイ

マダ キミニ  
アエテイナイスニ





スズツ…涼…

スズウ…涼…ツ



—お冬さん





私、また……

涼と一緒に——













涼……

もう何処にも  
行かないで

ずっと  
私の傍にいて……

……はい

ずっと……  
一緒にです



これからはお冬さんと

ずっと共に……





ここまで読んで頂きありがとうございました。

夏コミの原稿をしている時から次は二人の初夜本を出したいと思い夏コミ後から脳内でずっとお話を練っていましたが、当初よりもだいふ内容を削った形になりました。冬涼と関連のある艦娘との絡みやお冬さんがふたなりになるまでの詳細な描写も考えていましたが、あくまで描きたいのはお冬さんと涼月の愛の描写だったため、二人のみに焦点を当てた形にしました。(冒頭で初霜が登場しているのはその名残…)色々削っても最終的に暗い感じになってしまいました…。

お冬さん実装イベと劇場版の深海棲艦の描写や、冬月涼月の関連書籍を読んでから自分なりに解釈をして史実で沈んでいないお冬さんがどうして深海棲艦になったのかという理由と救済され涼月に迎えられるまでの場面は絶対に入れたいと思っていました。イベントの時にも第二艦隊旗艦を涼月にしてお冬さんをお迎えに行きましたが、実際こんな感じで涼月に救われていたのかな…と考えています。防空埋護冬姫撃破時の台詞を思うと今回描かずにはいられなかった…。(なお作画が大変だった模様)

今回注意書きもした欠損描写ですが、あまりリアルにし過ぎると余計に人を選ぶ内容になってしまうのでお冬さんの腕が…な描写はなるべく見えない構図にしました。(つまり見る角度によっては…)上にも書いたお冬さんがふたなりになるまでの詳細な経緯や身体に加わる異物感で悶え苦しむお冬さん…な場面も考えていましたが(個人的設定ではかなり苦痛を伴うもの)ここで書くだけに留めておきます。

今回のメインタイトルは分かりやすくそのままの意味の造語ですが、サブタイトルで少し悩んでふと昔吹いたことのある楽曲を思い出し、今回のテーマに合っていたので取り入れてみました。世代がばれそうですが、ある時期に吹奏楽を経験していた人には馴染みのある曲だと思います。起伏の激しい曲なのでこの本の雰囲気と微妙に合っている気がしないのですが、この曲を聴いた後にこの本を読むとよりお冬さん…というか防空埋護冬姫の悲しみや嘆きがイメージしやすいかも…？

表紙の構図はかなり前からふわっとラフだけは出来ていて、下書き～線画の段階で微妙に構図が変わりましたがイメージ通りの二人が描けました。前作の『待宵の月-One midnight-』の表紙以上に自分の中でイメージする冬涼が思い通りに描けて個人的にお気に入りです。表紙のモチーフにした彼岸花ですが、ネガティブな方で想像しがちですが冬涼に当て嵌めるのはポジティブな花言葉の意味合いのつもりです。ちなみに白い彼岸花は九州でよく見られるそうです。いつか見に行きたい…。表紙が夜なので、最後のページは朝日を背にする二人で良い対比が出来たと思っております。表紙を描いている時には彼岸花を由来としたあるゲームキャラクターの関連曲をずっと流していました。(九州が舞台の生き物を集めるゲーム)(この時点でもうわかる人にはわかる)流星哀歌は名曲…。

お冬さんは涼月ほど言葉には出さないけど、涼月がお冬さんを想う以上にお冬さんは涼月の事を強く想い愛しているのではないかなと個人的に解釈してます。深海棲艦になっても涼月の事を想い叫ぶ姿を見たらそうとしか思えなくて…。えっち方面に解釈すると、ふたなりの身体になってから更に想いの強さが増して涼月を激しく抱く事もあったらいいなとか、性欲が増してしまっただけで涼月と愛し合う回数がどんどん増えそうとか今後のえっちネタがどんどん膨らんでいきます。今回お冬さんの心情描写にページを割きすぎてえっちシーンが前回より薄目で消化不良になってしまったので、次こそはエロ全開でいきたい…。冬涼を描くこと自体は楽しいのですが、シリアスな話は描いて段々恥ずかしくてしんどくなってくるので次は明るいえっちなお話にしたいですね。お冬さんに攻められてばかりなので自らお冬さんに跨って腰を振る大胆でえっちな涼月も描きたい…。

そして現在艦これアニメ二期が放送中ですが、OPEDに二人が出た時も心臓が飛び出そうになったのに四話でついに冬涼が本編に登場してリアタイ時発狂しかけました…。次回予告の割烹着姿のお冬さんが気になり過ぎて五話が待ち遠しいです。(後書き執筆時：12月19日)

今回は前回以上に個人解釈を強く入れた本になってしまいました。是非ご感想を頂けると励みになります。(今後の路線の参考にもなるので…)

それでは、また何処かでお会いしましょう～



冬涼本専用の感想フォームを作りました。  
チェック方式の簡単なアンケートのみでも  
送れるので良かったらお気軽にどうぞ！→  
URL: <https://forms.gle/XzHYosx6YZMF7agXA>



Twitterや下記メールアドレス宛でも受付ております。



\* 発行 \*  
my pace world/南瓜とるて  
<http://torute810.web.fc2.com/>  
mail:torute810@gmail.com  
pixiv:319735 Twitter:torute810

\* 発行日 \*  
2022年12月30日

\* 印刷 \*  
ラック出版様

※無断転載・複製・アップロード、もしくはそれに類する行為を禁じます。  
また転売・ネットオークションへの出品も禁じます。



*Gesshoku*  
*-end of Lament-*

*Kantai Collection Fan book*  
*Fuyutsuki × Suzutsuki*

*Presented by*  
*my pace world/Kabocya Torute*

*2022.12.30*